

第11回心リハ指導士スキルアップセミナー報告

平成25年11月23日、京都は紅葉の TopSeason のなか、京都府立医大図書館ホールにて第11回心リハ指導士スキルアップセミナーを無事に終えることが出来ました。

過去最大クラスの95名程度の募集を致しましたが、今年は早々と応募があつまり募集日程を切り上げて定員到達となりました。

今年はいつもの心リハの勉強という趣旨から少し離れて循環器疾患の理解を深めることを主眼として内容を考えてみました。コンセプトとしては W.P. Harvey が 1964 年に著した心臓病診断の五本の指を磨こう、ということにあります。五本の指とはなんでしょうか？

拇指：病歴、問診

示指：身体所見

中指：心電図

薬指：胸部レントゲン

小指：臨床検査

Harvey 博士は薬指までで心臓病の大部分は診断できるものと記載しています。私も漸くその味わいを少し感じられるようになってきたように思います。

最近の若手 Dr をみておりますと、病歴もおろそかに、すぐエコー所見、カテ所見、BNP だとか臨床検査所見の解釈に進んでいきます。それではいけません。

患者さんに話を聞いて、所見をとって、心電図、レントゲン程度の最小限の検査の中から最大限の情報を引き出してから、検査に進むというのが望ましい姿だと思います。

今年は、示指：身体所見を白石、中指：心電図を府立医大循環器内科 白山準教授、薬指：レントゲンを津市民病院木股医長、小指：心エコーの解釈を京都大学循環器内科小笹先生にお願いして講演を行いました。非常に配付資料も充実していて大変よいセミナーになったのではないかとおもっています。

また、特別企画として、当院心臓血管外科教授である夜久教授に最近の心臓血管外科手術のトレンドについても教えて頂きました。特にバイパス手術と PCI の予後、年々増加する弁膜症手術の中から AS の手術と TAVI とのすみわけなど興味深い話題を頂きました。

最後に希望者に当院の施設見学をして頂き、解散となりました。

参加者の皆様にも秋の京都をご満喫していただけたことではないかと考えます。

以上、ご協力頂いたスタッフのみなさまありがとうございました。

京都府立医大循環器内科 白石裕一